



令和3年度 果樹情報 第20号

(令和4年3月24日)

果樹の発芽予測

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (3月中旬、果樹研究所)

3月の平均気温は、3半旬が7.8℃で平年より3.1℃高く、4半旬が5.9℃で平年より0.3℃高く経過しました。この期間の降水量は51mmで平年比213%とかなり多く、日照時間は66.5時間で平年比101%と平年並となりました。

2 発芽状況 (3月21日現在、果樹研究所)

発芽は、もも、なし、りんごの各品目とも、まだ確認されていません。

3 発育予測 (3月22日現在、果樹研究所)

仙台管区気象台が3月17日に発表した1か月予報(3月19日～4月18日)では、平均気温は平年並または高く推移すると見込まれます。

東北地方1か月予報(仙台管区気象台 令和4年3月17日発表)
向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目(3/19～3/25)は、低い確率50%です。2週目(3/26～4/1)は、高い確率50%です。

今後の気温が平年より2℃高く経過した場合は、果樹の発芽はもも「あかつき」が3月27日ごろで平年より3日遅く、なし「幸水」が4月1日ごろで平年並、りんご「ふじ」が3月25日ごろで平年より2日早いと予測されます。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により大きく変動することがあるため注意が必要です。

表1 発芽予測日 [予測方法：発育速度(DVR)モデルによる発育予測]

	発芽日		今後の気温経過			2週間予測
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
あかつき	3月16日	3月24日	3月28日	3月27日	3月30日	3月28日
幸水	3月24日	4月1日	4月3日	4月1日	4月6日	4月3日
ふじ	3月21日	3月27日	3月26日	3月25日	3月28日	3月26日

注1) 発芽日の平年値は、1991～2020年の平均。

注2) 2週間予測とは、2週間までは気象庁が発表している2週間気温予報を反映し、2週間以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注3) 発育予測は2～3日の誤差が生じる場合があります。

4 栽培上の留意点

(1) 管理作業の計画的な実施

この時期の管理は、せん定、せん定枝処理、誘引及び休眠期防除等が中心となります。発芽予測日や今後の気象予報等を考慮し、管理作業が遅れないように注意しましょう。

(2) ももの摘らい

摘らい作業の適期は、発芽直前までであり、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を傷めやすい上に、花らいが離脱しにくくなり、能率が極端に低下します。

摘らい作業は時間を要するので計画的に実施しましょう。

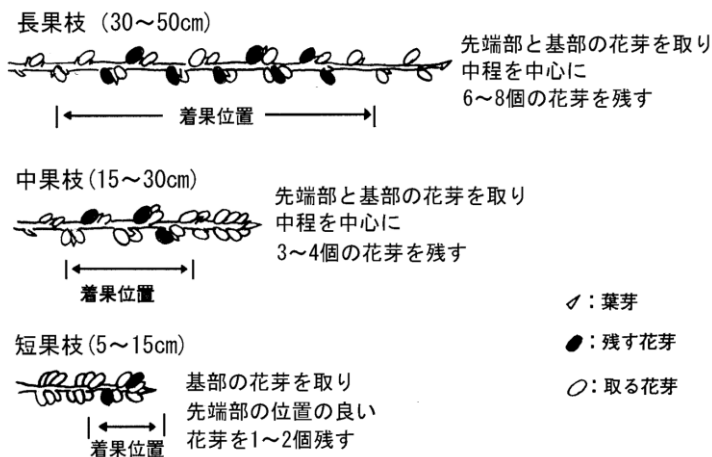


図1 ももの摘らい方法

5 病害虫防除上の留意点

発芽前の防除は、防除時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

(1) りんご

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期の防除を徹底するとともに、発病部は削り取るかせん除しましょう。

輪紋病の発生が多い園地等で枝幹にいぼ病斑がみられる場合は、病患部を削り取りましょう。

うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度低下を図りましょう。

ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。なお、発芽前までに防除を実施できなかった場合は、発芽後1週間までに防除を行いましょう。

(2) もも

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）に防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

なお、ハマキムシ類の発生が多い場合は、開花前（4月10日ごろ）に防除を実施しましょう。ただし、有機リン剤等の訪花昆虫に影響がある薬剤を使用する場合は使用時期に注意しましょう。

(3) ネクタリン

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）に防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、カイガラムシ類、モモアカアブラムシの発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

なお、ハマキムシ類の発生が多い場合は、開花前（4月10日ごろ）に防除を実施しましょう。ただし、有機リン剤等の訪花昆虫に影響がある薬剤を使用する場合は使用時期に注意しましょう。

(4) なし

黒星病の枝病斑は伝染源にはなりません。枝病斑がみられる枝では芽基部が感染している可能性があるため、枝病斑の有無を十分に確認しながらせん除しましょう。

黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、せん定時に取り除きましょう。

(5) ぶどう

晩腐病や黒とう病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

また、晩腐病に対しては、発芽前の防除を徹底しましょう。

前年にハダニ類の発生が多くみられた園地では、発芽前に防除を実施しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

